歴史の道をゆく

男鹿街道(2)

南磯道と北浦道

①

男鹿半島内の街道は、明治になって「船川街道」となる南磯の道と、脇本から北浦、湯本に通じる北浦街道が主たる道であった。その他、真山・本山のお山参詣をする真山道や本山道が各村から枝分かれし、随所で男鹿街道と交錯していた。

北浦への街道は脇本起点と、羽立から比詰、仁井山を通って滝川で脇本田谷沢からの道と合流する二本の道があった。これら北浦道は湯本温泉への湯治道ともなった。脇本田谷沢から寒風山南麓を通る道筋には弘化二年(一八四五)に脇本大竜寺の住職を願主とした三十三観音の石碑が建てられ、また、滝川と仁井山の村境は真山道の分岐ともなり参詣道が諸々あったことがわかる。滝川七村の内、萱置場村の目黒周兵衛は北浦村親郷の肝煎を務め、本山山麓に大植林を行うなど、渡部斧松と並ぶ大地主であったという。

②

男鹿中の山田、市野、そして北磯の相川までゆるやかな丘陵地を上り下りした。相川の手前、小増川と大増川の間の海岸段丘上に秋田安東氏草創期の城館跡と推定される染川城址がある。北浦日枝神社に康永三年(一三四四)安倍(安東)兼季建立の棟札が残されていることなどがその推定根拠となっている。

北浦は藩政後期、外国船警備のためにも重要な地点で、唐船番所や台場が置かれ、船越、脇本とともに重要な集落となった。またハタハタ漁や海運でも賑わい、合わせて真山・本山方面への参詣者や湯本湯治客も多く、宿駅設置など街道整備は進んだ。

畠、入道崎までは湯本、北平沢(後に西黒沢)を通るものと、一ノ目潟北岸から戸賀を経由して至る道が利用されていた。

③

脇本、あるいは羽立から船川、門前に至る南磯の道は、海の穏やかな日は山道を避け、海伝いに歩いた。羽立は新田開発でできた村で、『六郡郡邑記』が著された享保十五年(一七三〇)には戸数十三軒の小さな村で、その先が金川である。今は船川港湾の北端の住宅地であるが、南磯道が通っていた頃、波の荒れる日は天下道と呼ばれた山際の道を通って船川に出ていた。金川洞泉寺境内の観音堂には、荒れる海を鎮めるために日和待ちしていた廻船が奉納したという「観音菩薩立像」が安置されている。

④

船川は中世、秋田(安東)実季の家士、舟川右近が高台にある鳥屋場館に拠った所とされ、湊としても立地条件がよく、藩政期には秋田藩領舟河村として半島南岸村落の中心地となった。幕末には外国船などを見張る唐船番所や台場が置かれ、また南磯道の駅場ともなった。またその頃には度重なる大火、土砂崩れの災害に見舞われ、嘉永六年(一八五三)の大火後、当時の村づくりの大家、渡部斧松によって、雑然とした村の整備や町割が行われたという。一方、船川湊は古来、風待湊ともなったが、明治期に長い防波堤を持つ近代築港がなされた重要な港町である。

⑤

街道は南磯に沿ってさらに平沢、増川、女川、台島などの漁村へと続いた。台島の今木神社境内の地蔵菩薩像碑に「右本山道、左馬道」とあるように、この周辺の村落からはそれぞれ本山参詣の道が山に向かって延びていた。信心深い当時の人々は講中で沿道に庚申塔などを建て、道標にもした例が非常に多かった。妙見堂霊山の暖地性ヤブツバキ群生が北限地とされる椿には、能登山下の五輪塔の他、南北朝期の宝篋印塔や、青面金剛供養塔など多数の石碑群がある。

椿の先、館山崎には双六館跡があり、周辺にはやはり数多くの石塔群が散在している。館山崎と潮瀬崎の間の小さな湾に面した小浜の集落を過ぎると本山門前である。門前には漢の武帝や、鬼伝説で知られる赤神神社五社堂と、真言宗智山派長楽寺がある。

歴史が平安時代までさかのぼる本山は、北浦真山と門前が主たる登拝口であり、これはいまも変わらない。

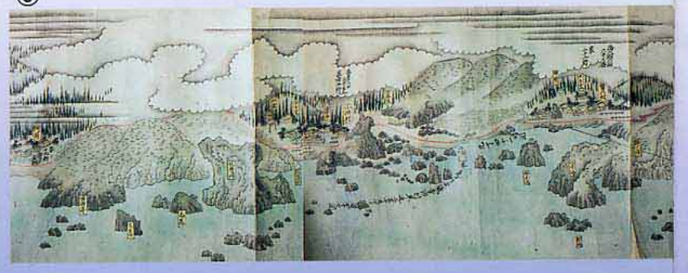
漁労交易と信仰、軍事警備など男鹿の街道に与えられた役割はきわめて重要なものであり、人と物の動きが活発な街道に沿って各集落が発展してきたものである。

⑥

⑦

⑧

⑨



①三吉神像(男鹿市脇本岩倉)
男鹿一帯に残る太平山信仰の像。江戸末期のものと推定され、地元では三吉(さんきち)さんとよばれ信仰されている

②寒風山地震塚(男鹿市脇本富永)
死者57名という大きな被害が出た、文化7年(1810)の男鹿地震の供養塚。寒風山の中腹に建立されている

③染川城址(男鹿市北浦相川)
南北町時代(1333～1392)安東氏と関わりの深い安倍兼季(かねすえ)の居城と伝えられ、空堀や土塁跡などを見ることができる

④五輪塔(男鹿市北浦五輪野)〔男鹿市指定文化財〕
南北町時代の作と見られ、高さ172・5センチメートルの大きなもの。周囲にも数基の五輪塔が建てられている

⑤真山神社(男鹿市北浦真山)
4世紀頃の12代景行天皇時代の起源と伝えられる神社で、木造薬師如来座像〔県指定有形文化財〕がある

⑥台島の道標(男鹿市船川港台島)
今木神社境内に建つ地蔵菩薩立像が彫られた石碑で、下部に「右本山道」「左馬道」と刻み、道標としている

⑦五社堂の石段(男鹿市船川港本山門前)
なまはげが一晩に999段の石段を積み上げたという伝説が残る。五社堂への参道になっており、上りは約15分

⑧赤神神社五社堂(同上)〔国重要文化財指定〕
赤神神社の本殿で、入り母屋造りに唐破風のひさしを持つ。13世紀初期の創建を300年前に秋田藩が建て替えた

⑨男鹿海岸図巻(船越　鈴木誠一氏蔵)
船越の御役屋役人、鈴木重孝が安政3年(1856)に描いた男鹿半島海岸の様子。そのうち館山崎から門前に至る部分〔県指定有形文化財〕